



天正8(1580)年に開かれた日蓮宗最古、最大、最高の学問所であった飯高檀林跡(飯高寺)。
講堂・総門・鐘楼・鼓楼は国指定重要文化財に、巨大な杉がうっそうとした境内全域は千葉県史跡に指定されています。凛としたたたずまいは歴史を感じさせ、訪れるものを温かく迎え入れます。

匝瑳市域に人が住み始めたのは旧石器時代のこと。やがて土器が使われるようになり、定住が始まります。当時使用されていた丸木舟が多数出土しているほか、多くの貝塚が残っています。
奈良時代に入ると国郡制により下総国が成立し、匝瑳郡が置かれます。その範囲は現在の旭市、多古町の一部にもかかる広大なもので、下総国11郡の中でも最大でした。
中世の匝瑳市域では、武士団同士の土地を巡る争いが続き、八日市場周辺には武士団による集落が形成されます。同時期に、市域北部で法華宗(日蓮宗)が広まり、農民による「講」が結成されたのもこの時期です。
江戸幕府が開かれ戦乱の世が終わると、人々はより多くの米を作るため、この地方に広がっていた広大な「樁の海」の干拓に着手。これが現在「干潟八万石」と呼ばれる水田地帯です。匝瑳市域は、後に木綿で広く知られるようになり、周辺の産物を江戸へと送る集積地として発展します。
明治維新を経て千葉県が誕生。そして、匝瑳市の前身・八日市場市と野栄町がそれぞれ昭和の大合併で誕生します。総武本線の開通で商業都市へと発展する一方で、農林水産業のまちとして地盤固めがなされ、今日に至ります。

Buddhist school IIDAKA DANRIN
The oldest, biggest and highest school for priests of the Nichiren sect of Buddhism was opened in 1580. The auditorium, main gate, belfry and drum tower have been designated as important cultural properties by the country. The whole of the premises which are surrounded by ancient Japanese cedar trees is designated as an historic site of Chiba Prefecture. The dignified building gives the visitor the historic story behind yet with a warm and welcoming feel.



新緑祭



檀林跡周辺散策

飯高檀林跡周辺には、本殿を囲う二十四孝の彫刻が見事な「飯高神社」や5月にはフジが咲き誇る「妙福寺」、スダジイを中心に自然林が形成されている「天神の森」などがあり、散策が楽しめます。この辺りは「妙福寺・飯高神社の森郷土環境保全地域」として県に指定されています。

- 1. 妙福寺
- 2. 飯高神社
- 3. 天神の森

1	
2	3



檀林跡を活用した催しは、春と秋にそれぞれ行われる「新緑祭」と「コンサート」が有名で、遠方からも多くの人が訪れてくれます。杉木立の間を通り抜けて威風堂々とした講堂を目の当たりにすると、自然と心が洗われたような気持ちになります。匝瑳市のパワースポットとして重要文化財を活用した「地域おこし」につなげられれば良いですね。
私たちの役割として、先人が残してきた檀林跡の景観を維持して、後世に守り伝えていかなければならないなと思います。

Special interview

「地域の宝」を 後世に守り伝える

「史跡飯高檀林跡を守る会」会長 熊切 達雄さん(金原)



長徳寺の仏画 長徳寺に所蔵されている絹本着色(けんぼんちゃくしよく)の仏画「愛染明王像(あいぜんみょうおうぞう)」と「普賢延命像(ふげんえんめいぞう)」の2幅は、国の重要文化財に指定されています。



丸木舟 縄文時代の重要な交通・運搬手段であった丸木舟。市内でも多数の舟が発見されており、県指定有形文化財のものも含めて保存されています。

松山庭園美術館 芸術家・此木三紅大(このきみくお)氏のアトリエを公開したものです。コケとモミジの純和風の庭園と、芝生にマツを配した洋風の庭園には、石の彫刻や鉄の彫刻(ガンダ彫刻)が置かれ、来館者の憩いの空間となっています。



木造釈迦涅槃像 下出羽区に所蔵されているヒノキ材でできた寄木造りのこの像は、数少ない彫刻涅槃釈迦像(ねはんしゃかぞう)として、県の有形文化財に指定されています。



聖画 日本における女流作家の先駆者であり、最初のイコン(聖画)制作者・山下りん氏が書いたイコン10面(県指定有形文化財)。明治24年に鶴沢修神父によって開かれたロシア正教の教会、ハリストス須賀正教会に所蔵されています。

3つの国登録有形文化財(建造物)

1. 坂本総本店店舗 2. 鶴泉堂菓子店店舗兼主屋他 3. 新井時計店



国指定重要無形民俗文化財 木積の藤箕製作技術

木積地区ではその生産が江戸時代中期に始まったとされます。丁寧な作りで軽く、弾力に富んでいることが評価され、最盛期の大正時代末期には地区全体で製造戸数130戸、従事者は430人、年間13万枚弱を生産したとされています。

現在は農業の機械化、安価なプラスチック製品の普及によって極めて少ないですが、「木積箕づくり保存会」が伝統を継承するため製作を続けています。

藤箕製作の伝統的な製作技術を伝え、我が国の箕製作技術の変遷を理解する上で重要な技術として、平成21年に国の重要無形民俗文化財に指定されました。



5月のふじ祭での実演

The winnowing basket of Kizumi area has been around since the middle of Edo period. Light yet strong, winnowing baskets have proved to be popular in those times and at the end of Taisho period, 130 manufacturers were producing 130,000 pieces annually by 430 craftsmen. Although modern technology has replaced its position nowadays, the kizumi winnowing basket preservation society is still conserving the tradition.

It has been designated as a significant intangible folk cultural asset in 2009 for conveying the traditional fabrication techniques and importance in understanding the evolution in Japanese fabrication.

Special interview



藤箕製作技術の伝承者
秋葉 千枝子さん(南神崎)

「ずっとやってきたもの」
後世に伝えたい

この辺りの地域では、昔は各家で箕を作るのが当たり前でした。私は、7、8歳の頃から、小遣い稼ぎで親の手伝いをしていたので、見よう見まね、自然と作り方を覚えましたね。母親は他の地域から嫁に来て、右も左も分からない中で箕作りを覚えなければならなかったので大変だったと思います。箕作りは生活の一部というより「生活そのもの」。当時は各家が数を競い合うように作っていました。多い家では年間500枚近く作っていたんじゃないですかね。私は家で子育てをしながら箕を作っていましたよ。



今は売り物として作ることはなくなりました。箕作りの技術を伝える毎月1回の伝承教室で作るだけです。技術を覚えたいという生徒さんがいてくれて、教える方も一所懸命になります。これまでずっとやってきたものなので、後を継いでくれる人がいればいいなと思って協力しています。これからでもできる限り箕を作り続けたいですね。